Kaisei Times
FUKUOKA KAISEI GIRLS' HIGH SCHOOL
October 2026 Issue
10





10月のご挨拶

副校長　竹下　徹

「天高く馬肥ゆる秋」と申しますが、秋もいよいよ深まってまいりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。あと2か月半後には「明けましておめでとうございます」と新年の挨拶を交わすことになると思うと、月日の流れの早さに驚かされます。

10月1日(木)から5日(月)まで、ニュージーランド北島のハミルトンにある姉妹校、ハミルトン・ガールズ・ハイスクールと、同校近くのハミルトン・ボーイズ・ハイスクールから、総勢41名の皆様が来校されました。今回の訪問の大きな目的は、姉妹校交流に加え、ニュージーランドの先住民族であるマオリの伝統的な舞踊「ハカ」を披露していただくことでした。ハカの力強い動きや掛け声には仲間との絆や誇り、歓迎や敬意など、さまざまな意味が込められています。両校のハカチームはニュージーランド国内の大会で優勝するなど、輝かしい実績があります。実際に目の前で披露された圧巻のパフォーマンスに大きな感動を覚えると共に、古くから受け継がれてきた伝統を現代の若者が誇りを持って受け継ごうとする姿に心を打たれました。日本にも「能」や「歌舞伎」をはじめ、長い歴史の中で継承されてきた伝統文化や芸能があります。日本の学校生活においては、それらについての授業を受けたり、体験をしたりするチャンスがほとんどない中、本校生徒がつい先日幸運にも「能」を鑑賞する機会に恵まれたのは、本当に嬉しいことでした。本校生徒の皆さんにもニュージーランドの生徒のように、自分の国や地域が育んできた文化や伝統に誇りを持ち、その素晴らしさを次の世代へ伝えていってほしいと思います。

今回の訪問では、ホストファミリーの皆様にニュージーランドからの生徒を暖かく受け入れていただきました。ホームステイをした生徒からは「どれほど親切に接していただいたか」という話がたくさん聞かれました。最終日には、別れを惜しむホストファミリーの方々と生徒の姿を見て、今回の交流がいかに意義深いものであったのかを改めて感じました。国や言葉、文化の違いを越えて築かれた絆は、これからも心の中に残り続けることでしょう。

そんなことを考えていた折、先日、今年55歳になるかつての教え子からクラス会へ誘われました。彼らは私が担任を務めた2つ目のクラスであり、3年間同じ生徒の担任をし、尚且つ福岡県で初めて設置された英語コースの生徒、ということもあって特に思い出深いクラスです。卒業してから40年近く経ちますが、今でも「先生にもぜひ来てほしい」と声をかけてもらえたことを教員として何より嬉しく感じています。教員をしていると毎日生徒と向き合い、一人ひとりの成長を願いながら過ごしますが、卒業するとそれぞれの人生が始まります。「元気にしているだろうか？」、「どんな大人になっただろうか？」と思うことはあっても、こちらからその後の人生に関わることはできません。だからこそ教え子から「先生に会いたい」と思ってくれたことに、教員として言葉にできないほどの喜びを感じました。クラス会で懐かしい顔が集まると、かつて教室で過ごした時間が走馬灯のように甦ってきました。あの頃はまだ幼さが残っていた生徒が今では立派な社会人となり、日本に留まらないそれぞれの場所で懸命に人生を歩んでいます。そのような姿を見ていると担任として共に過ごした日々は決して過ぎ去ったものではなく、今もなお一人ひとりの心の中に、そして私自身の心の中にも生き続けているのだと感じました。

ニュージーランドの生徒との交流やかつての教え子との再会を通して、人と人との繋がりには時間や距離、言葉や文化の違いは関係ないということを再認識しました。生徒の皆さんが本校で過ごす時間は人生のほんの一時にすぎません。しかし、その一時に築かれた絆は決して消えることはないでしょう。皆さんも、１つひとつの出会いを大切にしながら、未来へとつながる絆を育んでください。

修学旅行　シンガポール

２年生は、シンガポールに９月２１日（月）から２５日（金）までの３泊５日、修学旅行に参加しました。生徒たちは日本とは異なる文化や歴史、街の雰囲気に触れ、さまざまな学びを深めました。現地ならではの食事や観光地を楽しむだけでなく、現地の人々との交流を通して、異文化を理解する貴重な機会となりました。また、仲間と協力しながら行動する中で、主体性や協調性を育むこともできました。普段の学校生活では得られない多くの経験を通して、生徒たちは新たな価値観に気づき、自分の世界を広げることができたようです。今回の修学旅行で得た経験や出会いを、これからの学校生活や将来につなげていってほしいと思います。







修学旅行　沖縄

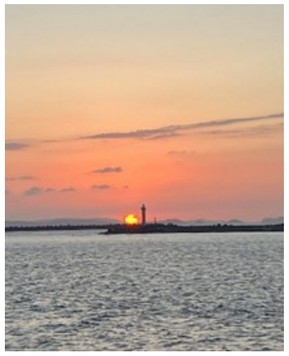


ひめゆりの塔を訪れ、戦争の悲劇の中で亡くなっていった同世代の女学生のために献花し、誰もが平和に暮らせる世界の到来を願って祈りを捧げました。

カトリック開南教会では神父様が私たち一人ひとりを神様は大切に見守ってくださっていると話してくださいました。沖縄戦で亡くなった全ての方々の永遠の安息と私たちの旅の安全を沈黙のうちに祈りました。



令和元年に発生した火災により焼失した首里城正殿も外観は、ほぼ復元されていました。



１日目の夕食は沖縄の海に沈む夕日をながめつつ、船上でディナーをいただくサンセットマリンクルーズでした。







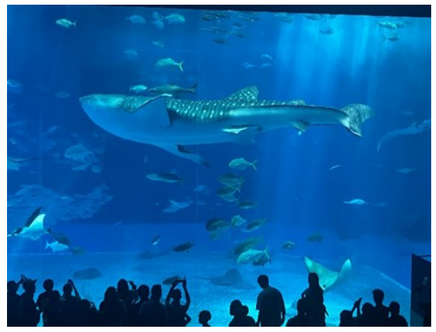
２日目には美ら海水族館を訪れました。圧巻だったのは８メートルを超えるジンベエザメやマンタが舞う「黒潮の海」水槽です。天候にも恵まれ、どこまでも青い空と美しい海は最高でした。



沖縄の伝統的な家屋が移築されている琉球村ではものづくり体験やエイサーの鑑賞も行いました。

３日目にはウミカジテラス、青い空と海、間近に飛ぶのは、旅客機に加え戦闘機や輸送であり、沖縄が基地の街であることを改めて感じました.

２泊３日の旅を通して今ある平和の尊さと、自然豊かな美しい沖縄**しまんちゅぬんぎ**を体感できました。











芸術鑑賞　能

今年度は10月１日（木）に大濠公園能楽堂で能を鑑賞しました。能や演目についての説明の後、「羽衣」や「船弁慶」を鑑賞しました。代表生徒による能面体験やお囃子ワークショップもあり、全員が能の世界を堪能できました。

「羽衣」では、大きく動いたり激しく表現したりするのではなく、ゆっくりとした動きの中で気持ちや美しさを表現しているところに感動しました。能は昔から続いている伝統芸能というだけでなく、長い歴史の中で大切に受け継がれてきた日本の文化なのだと思いました。（１年）

「静」と「動」を感じる鍛えられた無駄のない動きに圧倒されました。少ない道具と人物なのに感情や空気を感じることができました。「羽衣」の最後、腕を振り上げたときに袖の陰で天女の顔が見えなくなったところで鳥肌が立ちました。（２年）

主役が勝つという物語ではなく、成仏できない亡霊、怨霊の念などという、悔いの気持ちを大切にする考え方や、何もない舞台を使って見る人の想像力で楽しむ演劇があるということを知りました。（３年）



Schedule of events

11/6	金	クラスマッチ キッチンカー
11/11	水	慰霊祭
11/19 ～ 11/25	木 ～ 水	中間考査
11/28	土	入試説明相談会